

AMCP レポート

Vol.8



事業承継

【自分の代の後はどうしようか…？】編

開業して7年になる50歳の内科のF先生は、この厳しい時代であるにも関わらず年々患者さんが増えている、地域の「勝ち組クリニック」と呼ばれています。特に何の手も打たず、ひたすら誠実な診療をしているだけで、この伸び率なので、まだまだやりようによっては患者さんが増えそうな勢いです。自分のノウハウには自信がありました。

在宅・介護事業もやっているの、最近では少々お疲れ気味でしたが、ご息がこの度めでたく医大に入り、やっと承継者が出来たと喜んでいたら、「実は継ぎたくない。研究がしたい」の一点張り。

確かに、これからもっとも厳しい時代になるであろうことから、自分以上に苦しい思いをさせるのも忍びないとは少し考えていましたが…。

そうすると、自分の後はどうするか…、初めてF先生は自分が退いた後のことを考え始めました。

やはり、誰も継いでくれないのであれば、閉じるしかないのか…？自分のノウハウは一代で終わるのか？

F先生は淋しい気持ちで一杯です。

視野を広く！！

【例えば…、このような展開はどうでしょうか？】

先生が高齢で後継者がいないという理由で廃業するところがほとんどですが、最近では「開業したが上手く行かなかった！」という理由での廃業も多くなっているとか。昔に比べると「厳しい」という実態も開業予備軍の間では知れ渡っているため、最近では開業ブームと言うものの、まだ、二の足を踏んでいる方も多いと聞きます。

例えば、今回のケースと上述の背景を組み合わせると、開業を考えている先生は、F先生のところに「副院長」として「勤務」し、医業経営のノウハウを学び（ここなら在宅も介護も学べます）、自信がついたところで開業する、或いは、その医院の「分院長」となる。F先生はある程度の年齢になれば引退し、副院長或いは分院長に経営権を譲る、彼らは今までと同じ方式で勤務医を雇い、FC或いは分院を展開していく…。F先生は実質オーナーとして働きたい時だけ働き「悠々自適」な生活を送る。これで、老後は安泰、ノウハウは残る、医師が育っていく、社会に貢献する…、まさに「ウイン・ウイン」です。

事業承継の手法として身内が承継しない場合は、単に「M&A」するか「廃業」しか選択肢がないと思っておられる方も多いのですが、上記のような「事業展開」という選択肢もあります。更に、別会社を作って云々…、とすれば、まだまだ広がります。一度、頭を柔らかくして、ご自身の将来について考えてみてはいかがでしょうか？

★次回は…、「Vol.9」:人事制度の検証

【人事考課制度ってやはり必要？】



をお送りします。

お問い合わせ・ご相談は…

AMCパートナーズ株式会社

〒541-0054 大阪府中央区南本町2-4-10
Tel:06-6262-2256/Fax:06-6262-2257
<http://www.amcp.biz>
info@amcp.biz